

面白き實驗

小島松之助

御寺の梵鐘

銀か錫等の匙を糸の真中に繋ぎ、其糸の兩端を耳

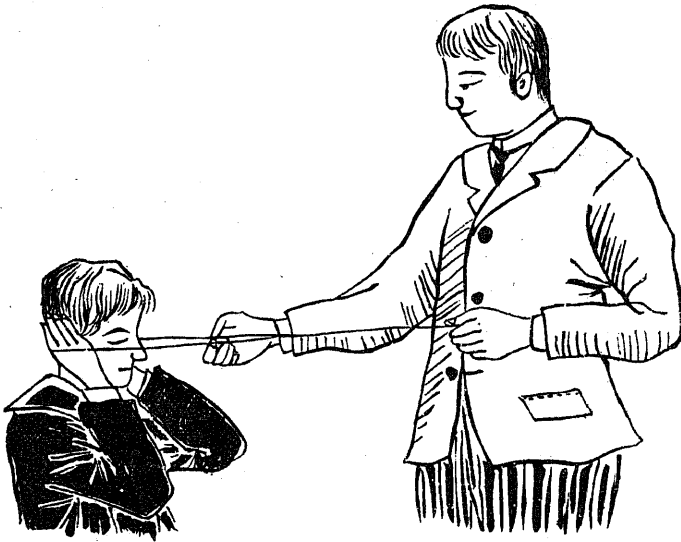


にわた、匙を真中に吊し之を動搖ながら、机の縁などに突き當らすれば、匙の振動は、糸を傳はりて耳に達し、匙の衝突する毎に、ゴーン〜といふ音がして、お寺の梵鐘を聞くを得べし。次は

雷鳴

を聞くことを話すべし。これは雷鳴を聞きす人をして、兩手を兩耳の上に置かしめ、其上から頭の回りに次の圖の如く糸をかけ糸の兩端を一緒にして片手にて引張り他の片手の指を兩糸の間に軽く動かしながら摩擦れば、轟々たる遠くの雷鳴を聞かしむるを得べく、又糸を爪にて摩擦する時は、般々として風烈迅雷を聞かしむるを得べし。
此實驗は糸の太さや、質や手加減が甘く行く時は頗る面白し。秋の夜長のよき慰

みとなるべし。



栗鼠退治

雨情

毎夜々々裏庭の葡萄棚へ来て、漸く色がついて来ます葡萄の實を滅茶く〜に荒して仕舞ふ栗鼠がわかりました。

である時此家の太郎と言ふ腕白盛りの少年が秘に考へました。折角紫色にみづ〜と葡萄が實つて来ると、栗鼠の畜生奴が来て皆な喰つて仕舞いやアがる、何麼かして仇を取つて遣りたいものだとか種々工夫を廻らしました末、とう〜栗鼠退治と決意いたしました。中々栗鼠は惻怍な動物だから、到底一人では甘く行かんから、誰かも一人加勢を頼みたいもんだと考へて居ります所へ、細い麻の糸がズル〜遣つて来まして。

「太郎さん〜何にを考へて居るんです?。」